

北本市政レポート

発行者：三宮ゆきお 後援会 会長 阪下 操・北本の未来を考える市民の会 会長 金子真理子 事務局 北本市東間8-171 Tel 048-542-2319

三宮市長にインタビュー

新型コロナウイルスの出現で1年以上、市民と市長が各種の会合や総会などで、出会う機会が無くなってしまいました。そこで、5月下旬に編集部が三宮市長から、この2年間の市政運営への取り組みと、未来へのとらえ方を聞き取り、レポートにしました。



市政は、市民が安心安全に暮らせる基盤をつくる

編集部 市長に就任されて2年が経過しましたが、現状の市政運営の最優先は、やはり新型コロナ対策になりますか？

三宮市長 市民の健康・暮らしを守る、それは命を守ることでから最優先です。新型コロナの出現で、行政は感染防止策、それに伴う生活様式や雇用形態の変化、経済への影響と大変厳しい状況ですが、優先して取り組んでいます。ワクチン予約では高齢者の皆様にご心配をおかけしましたが、現在はワクチン接種の推進と平行して、その後の課題を洗い出しているところです。

北本市の大きな課題の根本には人口減少がある

編集部 市政運営では常に優先順位の判断を迫られていると思いますが、「市民の暮らしを守ることを優先！」これは市民にとって心強いです。それでは、継続している課題事業の中で特に重点課題と言える事業を3つあげてください。

- 三宮市長** これまでの経緯・経過、財政状況などを勘案すると
- ① 平成8年に開始し25年が経過した『久保特定土地区画整理事業』に関するものが最も大きな課題と言えます。
 - ② 広域で進めることとした『新ごみ処理施設の建設事業』は、一度白紙解散になったので慎重に進めたいと考えています。
 - ③ 2059年までに公共施設の床面積を半減する『公共施設等総合管理計画』の取り組みも、丁寧な説明と市民の納得が必要で

これらの課題には少子高齢化、人口減少が含まれており、重なっているのが現在の状況と言えます。

久保特定土地区画整理事業は20年来の課題

編集部 対象地は44ha、関係世帯は約750世帯とうかがっています。事業の見直しはどのように進められ、地元への説明はいつ頃でしょうか。

三宮市長 これまで、2か年をかけて本事業の見直しをしてきました。期間の短縮と事業費の低減策を模索しながら、かつ遺跡も保全するという見直し作業を進めてきました。国難といえる、厳しい社会状況、財政状況ですが、何となく地権者の皆様のために、一刻も早く事業を完了させたいと思っています。

説明会の開催は、コロナ禍の中、ワクチン接種状況にもよりますが、説明責任を果たしたいと思っています。

今、それに併せ、これまでの20数年間の取り組みの検証も進めています。

新ごみ処理施設は将来を見通して整備したい

編集部 私たちの生活に欠かせない「ごみ処理事業」ですので進捗とお考えをお話ください。

三宮市長 令和2年8月に市民説明会を行い様々なご意見を拝聴しました。その後鴻巣市と事務レベルの勉強会が5回開催され、今年度4月の6回目から吉見町も参加しています。吉見町の参加によって中部環境保全組合の枠組を継続して新施設建設に取り組める可能性が見えてきたところです。

建設まで数年、稼働後は30年は続く事業ですから、勉強会において脱炭素や発電エネルギー、プラスチック処理など進展する技術を取り入れて、将来も有効な施設であるよう検討を進めていきたいと考えています。

* <インタビュー後の5月31日に開会された「第2回北本市議会定例会」に下記の報告がありました>

5月27日鴻巣市長、吉見町長、北本市長による、新たなごみ処理施設整備の意見交換会があり、鴻巣市長より「新施設は鴻巣市郷地安養寺地区に建設することで協議を進めたい」との提案がありました。提案を受け協議を進めることとしました。

公共施設再編は、市民とともに、丁寧に進める

編集部 公共施設は市民に必要な施設として設置され、利用者がある中で、再編は新設よりも難しいのではないですか？

三宮市長 公共施設の縮小や再編は、そのことによって新たな展開が期待できるものであることが求められます。市の資産、市民の財産をどのように変更するかということですから、関係する皆様のご意見をうかがいながら進めていきます。そうでないと市民の皆様のご理解が進みません。

現在、長期案件となっていた老朽化した中央保育所と栄保育所の再編を、3月に閉校となった栄小学校の校庭に統合した保育所を建設する予定で進めています。

編集部 栄小学校の石戸小学校への統合はスムーズに進んだのでしょうか。

三宮市長 各学年一クラスが長くつづいていましたが、学年の児童数が一桁になると複式学級を考えないとなりません。学校の適正規模等基本方針等に鑑み検討を重ねてまいりまして、一年以上前に閉校の発表をしました。議会の指摘もあり、当事者である児童の意見も組み入れて準備をしてきましたので、予定通り進めることが出来ました。

今は、ストーリー性のある校舎の跡地利用を考えています。



約50年間、北本市制と一緒に歩んだ栄小学校 3251名の卒業生を送り出しました。

安定した元気な北本を最優先に

編集部 「広報きたもと」を見ると、コロナ禍にあっても新たな事業や北本を元気にしようと努力されていることが感じられます。◎北本市が住宅情報誌「S」で自然災害指標(GNS)分析の結果、「災害に強いまち」として首都圏(東京・千葉・埼玉・神奈川)184市区中、3位に選ばれた。◎北本市への転入者が増加し、17年ぶりに人口の社会増があり若い世代が増加している。等、うれしい出来事ですね。

では、市民の方からの質問等について、お聞きします。

&greenは北本の魅力を市民のみなさんと展開

編集部 アンドグリーンというコンセプトで、昨年度からシティプロモーション事業が広報されています。チョッとおしゃれで明るいイメージですが、どのようなことを行っているのですか？

三宮市長 &green事業は、生産年齢人口の減少による様々な課題に対し、「まちの魅力を戦略的に発信し、交流、定住人口の増加を図り、地域を活性化させる取組」です。市の魅力を市民の皆さんと検討したところ、雑木林を始めとする緑豊かな環境という結果でした。そこで、緑とともにある暮らしの魅力を伝え、高める事業を市民の皆様と展開しています。「森めぐり」「秋の収穫祭」「マーケット」等の多彩なボトムアップ事業は市内外からの評価が高く、ぜひ多くの方に参加いただき、北本の魅力を再発見してほしいと思っています。

休止中のブラユキオも北本の魅力発見事業

編集部 昨年10月に「市長が語るきたもとの魅力と未来」が開かれ好評でした。再開が待たれますが。

三宮市長 これは市民の皆様向北本の自然や歴史をご案内し、このまちに住んでいることを誇りに思っていたきたいと3回シリーズで企画しました。感染予防のため現在は休止中です。

1回目(既済)大宮台地最高点を歩く(高尾河岸跡・逆さ椿他)

2回目(予定)鎌倉街道を歩く(石戸城・お茶屋御殿他)

3回目(予定)岩槻街道を歩く(深井一族、鴻巣七騎他)

*お茶屋御殿は、私が市史編さん室時代に徳川三代将軍(家康・秀忠・家光)が鷹狩で休息をした場所を石戸6丁目に推定していましたが、発掘によって確かめられたものです。今後も教育委員会で調査を進め、貴重な歴史的遺産を保存活用につなげていきたいと考えているところです。ご案内したい場所のひとつです。

ふるさと納税の伸びは北本を知ってもらうチャンス

編集部 北本市では楽器のふるさと納税やふるさと納税型クラウドファンディングもありましたが、寄付してくださる方が増えて北本に親しみを持っていただけると良いですね。

三宮市長 ふるさと納税の寄付額は年々伸びていまして、昨年度は県内で第四位、昨年度は県内でもトップクラスのご寄付6億円をいただくことができました。ふるさと納税はご寄付を通じて、北本市の魅力を知っていただくという意義があります。今後はいただいた寄付を、未来のまちづくりに活かせるよう努めてまいります。

楽器の寄付は令和元年度に主に管楽器を21件、令和2年度は3件頂戴いたしました。中学校で活用しています。



上尾道路第Ⅱ期工事も貴重な自然を残せるよう

編集部 道路促進要望と同時に、貴重な文化財や自然を残せるよう、国への働きかけ等はされたのでしょうか？

三宮市長 上尾道路は上尾・桶川間のⅠ期工事を終え、いよいよⅡ期工事が始まりました。現在、鴻巣方面から調査等が始まっています。私は上尾道路を推進する立場ですが、市内の上尾道路付近は、多くの文化財や自然観察公園等の貴重な自然が残されていますので、これに配慮した道路づくりをお願いしてきました。

令和2年5月、国に直接私が考える「上尾道路建設に関する考え方について」を文書で伝えました。6月には大宮国道事務所所長へ「私の考えるまちづくりの方向性について」のプレゼンもさせていただきました。

令和2年12月、大宮国道事務所の所長さんが来訪され、こうした対策に160億円を追加したとの報告を受けました。これで、総工費は670億円となります。

国の英断に大変感謝しているところです。

追加事業費内訳	金額(概算)	備考
大間廃棄物処分場対策	60億円	鴻巣・北本・吉見のゴミ全量撤去
埋蔵文化財の発掘費	24億円	遺跡予定地
環境保護対策追加費	11億円	猛禽類保護や湧水水源の確保等
横断歩道橋追加費	20億円	小中学校通学路確保対策
調整池整備の追加費	45億円	雨水流出抑制(調整池)
計	160億円	

コロナ禍で迎える市制50周年記念事業

編集部 さて、本年は市制施行50周年を迎えます。記念事業へのアイデア募集もありましたが、計画の一端をお聞かせください。

三宮市長 50周年記念式典はコロナに十分配慮して、11月21日に文化センターホールで開催し、市政にご貢献いただいた方の表彰を行います。また、これを挟む1か月間を「&green Week」として、市民の皆様や各課から提案のあったマーケットイベントやカレーフェスティバル、アウトドア総合ブランドのモンベルと森林セラピーのコラボイベントなどを開催し、多くの皆様とともに50周年をお祝いしてまいりたいと考えています。

必要な支援が必要なところに届くまでに

編集部 アフターコロナの市政運営をお聞かせください。

三宮市長 新型コロナによって、これまでと異なる社会を経験しました。生活が一変された方々もいらっしゃいます。

自治体や行政はそこに住む人々のためにあるものですから、常に改善に努めなければならないと考えています。9月にはデジタル庁が創設し、デジタル化が加速します。新型コロナの感染が抑制されると、市内ネットワーク、コミュニティの再構築が求められると思います。市内にある団体(商工会、自治連、コミ協、社協、民生委員会等々)のご協力をいただき、的確な支援につなげ、北本のまちが早く活気を取り戻せるよう、市政の舵取りをしてまいりたいと思っています。

編集部 困ったことはまず市役所に相談できる、これは市民にとって心強いです。お答えいただきありがとうございます。バランスの取れた市政運営を期待しております。こうしたお考えを聞く機会を、また設定させてください。